

45. クチジロビロウドマイマイ

屋久島の固有種である。本種は落ち葉の下や倒木下など、かなり湿度の高い環境に生息しているが、個体数は少ない。湿度の保たれた森林と、落ち葉が溜まりやすく湿度が保たれやすい岩場の隙間や倒木などの環境が必要である。

調査では、飛行場改変区域及び土砂採取区域改変区域内外樹林の大木下等で確認された。

46. ヘソカドケマイマイ

薩摩半島南部、大隅諸島、トカラ列島に分布する。本種は樹上性で、照葉樹林の木々や草に付着している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。

調査では、確認個体は少ないものの飛行場改変区域内外樹林で確認された。

47. ツバキカドマイマイ

伊豆諸島、薩摩半島・大隅半島南部、大隅諸島、トカラ列島に分布する。本種は樹上性で樹幹や葉上に生息しており、湿度の保たれた森林が必要である。

調査では、飛行場及び土砂採取区域改変区域内外樹林の樹上で多くの個体が確認された。

48. ヤクシママイマイ

屋久島、種子島に分布する。本種は落ち葉の下や樹幹に生息しており、生息にはある程度湿度の保たれた森林が必要である。

調査では、飛行場及び土砂採取区域改変区域内外樹林の樹上や落葉上で確認された。

49. チャイロマイマイ

佐多岬、大隅諸島、トカラ列島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。

調査では、飛行場改変区域内外の樹林において多くの個体が確認された。

50. オカヤドカリ類

文化財保護法では、屋久島に分布する種でムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、オカヤドカリが天然記念物の指定を受けている。現地調査で確認された個体は形態などからこれらの中の1種であると考えられる。夜行性で、昼間は林や海岸近くの草むら、石の下に潜んでいて、夜になると砂浜や水辺に出てきて餌をあさる。雑食性で、野菜類や魚介類を好んで食べる。

調査では、飛行場周辺で多くの個体が確認された。確認箇所は、いずれも海岸林が連続する場所であった。

51. ニホンウナギ

成魚の全長は1m程度。鹿児島県内では島嶼を含む各地に分布している。降河回遊魚で、河川で4～15年過ごし、繁殖のために海に下る。河口付近の沿岸域から上流まで広く生息するが、流れの緩やかな中流から河口、内湾にかけて多い。

調査では、河川で生息が確認された。

52. オオウナギ

成魚の全長は1m程度。鹿児島県内では島嶼を含む各地に分布している。降河回遊魚で、河川で4～15年過ごし、繁殖のために海に下る。河口付近の沿岸域から上流まで広く生息するが、流れの緩やかな中流から河口、内湾にかけて多い。

調査では、河川で生息が確認された。

53. アカボウズハゼ

成魚の全長は50mm程度。鹿児島県内では種子島、屋久島、奄美大島から知られている。樹林に囲まれた水の清澄な河川の渓流域に生息する。流れの緩やかな淵にて、転石上に定位している。

調査では、河川で確認された。いずれも全長30mm程であり、未成魚と考えられる。

54. ルリボウズハゼ

成魚の全長は120mm程度。鹿児島県内では種子島、屋久島、口永良部島、奄美大島に分布している。河川生活期は、水の清澄な河川の中流域～上流域に生息する。海洋生活期については不明。

調査では、河川で確認された。

55. モクズガニ

北海道、本州、四国、九州、琉球列島、小笠原諸島に分布する。本種は降河型の通し回遊を行うため、河川の上流域から汽水域及び内湾域を中心に潮間帯、浅海域に広く生息する。

調査では、河川や湿地で確認された。

56. ケフサヒライソモドキ

神奈川県～南西諸島、伊豆諸島南部に分布する。内湾、河口域中部の石の下や隙間に生息する。タイワンヒライソモドキが同じ場所で見られることがある。

調査では、河川で確認された。

57. タイワンヒライソモドキ

千葉県（太平洋側）・鳥取県（日本海側）～琉球列島に分布し、内陸の干潟、河口域上部で淡水の影響が強い砂泥底にある石の下に生息する。

調査では、河川において確認された。

58. ベンケイガニ

千葉県（太平洋側）・秋田県（日本海側）～琉球列島に分布する。河川の下流～中流の川岸や海岸近くの草地、湿地、水田の周辺等に巣穴を掘って生息する。産卵期は7～9月で雌は約1か月抱卵した後、川岸や海岸へ移動し、幼生を放つ。

調査では、河川や湿地において確認された。

59. コツノテナガエビ

体長 90～120 mm程度の大型種。鹿児島県内では大隅半島南西部、屋久島、口永良部島、中之島から知られている。河口から上流域まで生息し、比較的流れの速く、裸岩や転石が卓越する淵に生息する。

調査では、河川や湿地において確認された。

60. ミナミテナガエビ

神奈川県、静岡県、岡山県、島根県、高知県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県（種子島から沖永良部島を含む）、沖縄県（沖縄本島から八重山諸島まで）、小笠原諸島に分布する。本種は琉球列島では河川の河口部から上流まで生息するが、九州以北では河口～中流域に分布する。河川の深みのある緩流域等に生息する。

調査では、河川において確認された。

61. ツブテナガエビ

体長 60～80 mm程度のやや大型な種。鹿児島県内では口永良部島と屋久島から知られている。奄美大島からの報告もある。河口から中流域に生息し、比較的流れの速い流心部に棲む。河口から直ぐ渓流域になるような急勾配の小河川を好む。

調査では、河川において確認された。

62. ヤマトヌマエビ

体長 30～40 mm 程度の中型種。鹿児島県内では薩摩・大隅半島、甌島列島、宇治群島、大隅諸島、トカラ列島、奄美諸島、沖永良部島に分布している。下流～上流域まで広く生息し、ある程度深さがあり、流れの速い淵の壁などに集まる傾向がある。

調査では、河川や湿地において確認された。

63. サキシマヌマエビ

体長 20～30 mm 程度の小型種。鹿児島県内では中之島、喜界島、沖永良部島、与論島から知られている。山間を流れる河川の石の下や泉、崖から滲み出た水が集まる側溝などに見られ、洞窟内にも生息する。

調査では、湿地で確認された。

64. イシマキガイ

本州房総以南及び新潟県以南、四国、九州（対馬、壱岐、五島、屋久島、種子島を含む）、奄美大島、沖縄本島、宮古島、八重山諸島、小笠原諸島に分布する。河川汽水域の上流部から淡水域にかけて広く分布する。

調査では、河川で多数が確認された。

65. フネアマガイ

奄美大島以南に分布する。静岡県沼津市、和歌山県南部町、和歌山県白浜町、鹿児島県指宿市、屋久島南部等にも記録がある。本種は孵化後に降海して、幼生は河川部の汽水域の岩盤上に定着する。その後河川を遡上して成貝は通常淡水域に生息するという両側回遊型の生活史を持つ。

調査では、河川で多数確認された。

66. キボシケシゲンゴロウ

北海道、本州、四国、九州、対馬、五島福江島、屋久島に分布する。低山地～山地の清流に生息し、岸辺の岩陰等の流れの緩やかな水域やよどみの石の下等に見られる。

調査では、河川で確認された。

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡例

対象事業実施区域
調査範囲

● 確認位置
○ 変更区域

<確認時期>
春
秋

ニホンジネズミ (死体) 1
種名 確認数
確認状態

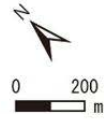


図 6.8-5 哺乳類の保護上重要な種確認位置図（飛行場周辺）（1, 2）



図 6.8-6 (1) 鳥類の保護上重要な種確認位置図（飛行場周辺）（3, 4, 5, 6, 8）

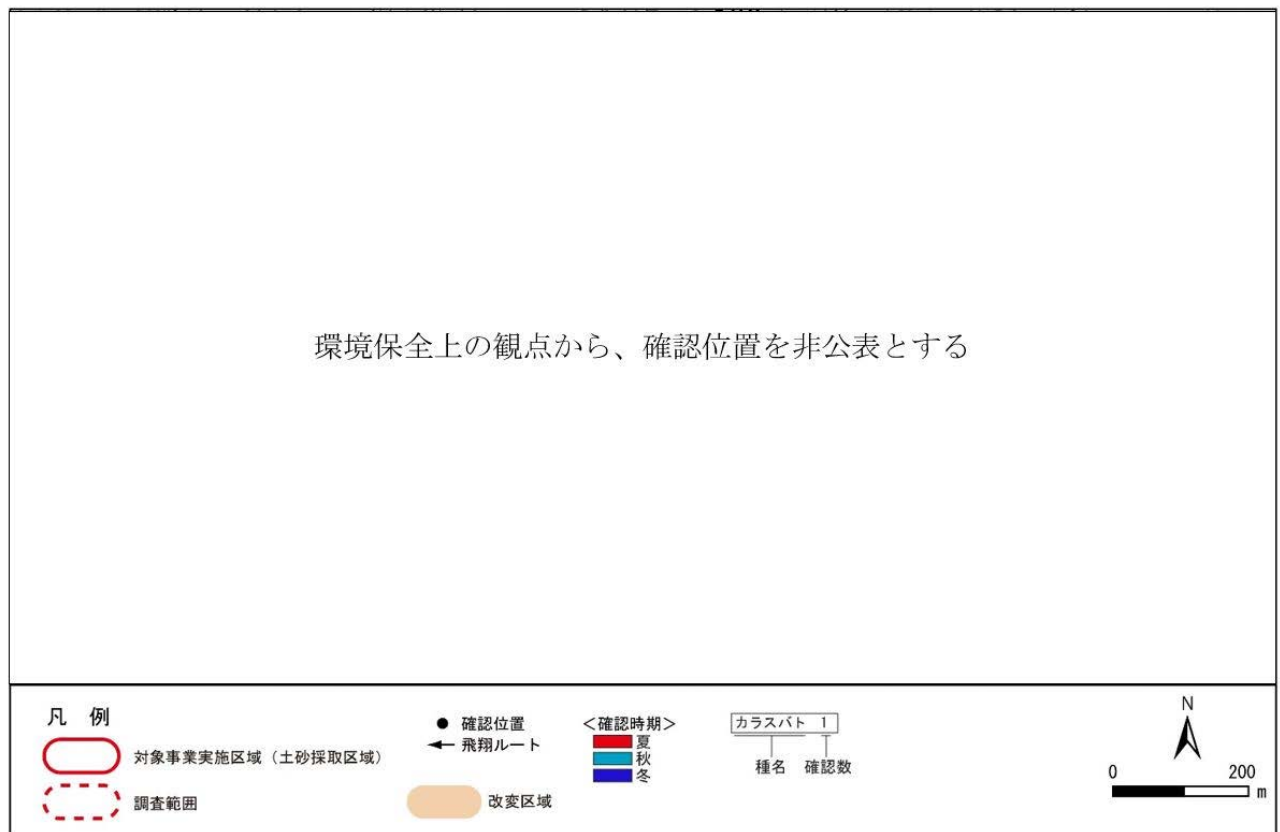


図 6.8-6 (2) 鳥類の保護上重要な種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（3, 7）



図 6.8-7 (1) 爬虫類の保護上重要な種確認位置図（飛行場周辺） (9)

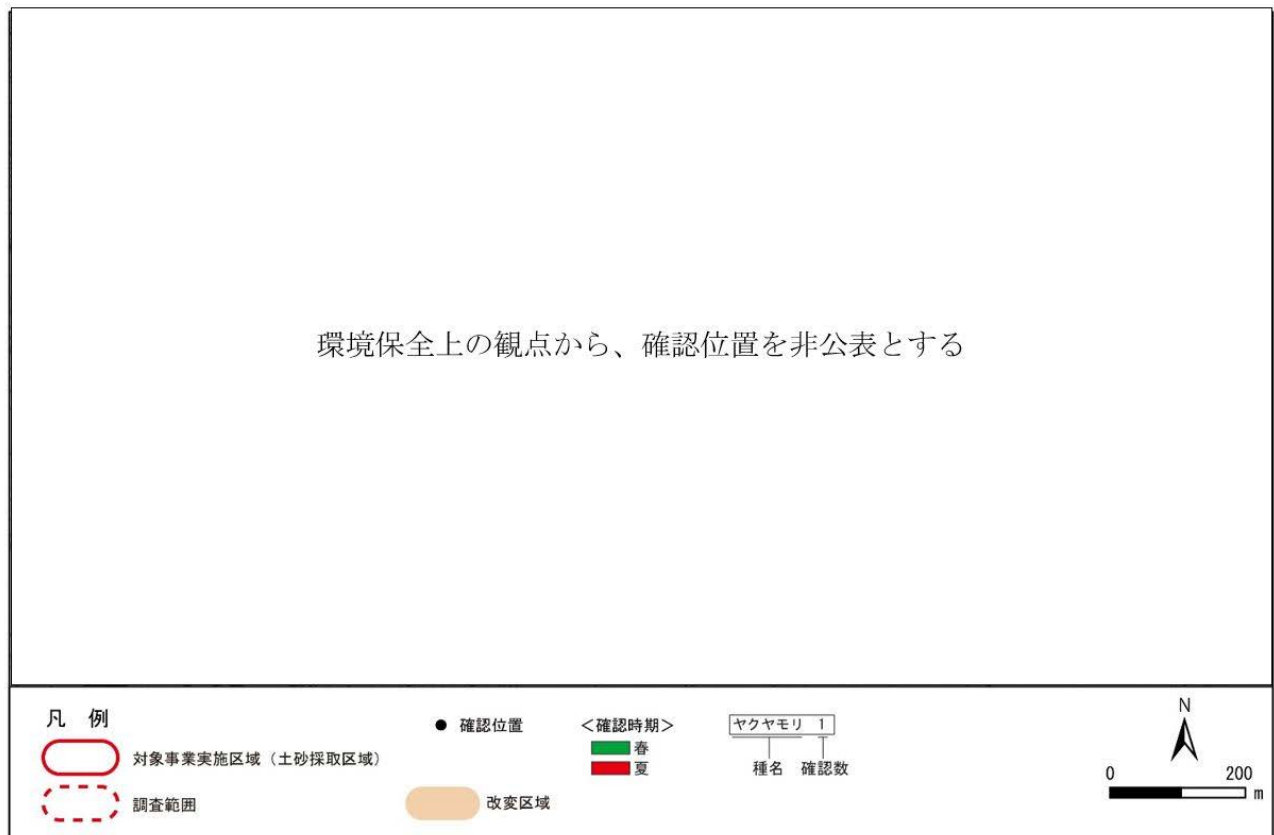


図 6.8-7 (2) 爬虫類の保護上重要な種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺） (9)



図 6.8-8 (1) 昆虫類の保護上重要な種確認位置図（飛行場周辺）（10, 11, 12）



図 6.8-8 (2) 昆虫類の保護上重要な種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（13）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡 例



対象事業実施区域



確認位置

<確認時期>

春

秋

ヤマタニシ 1

種名 確認数



調査範囲



変更区域



0 200
m

図 6.8-9 陸産貝類（ヤマタニシ）の確認位置図（飛行場周辺）（14）



図 6.8-10 (1) 陸産貝類（ミジンヤマタニシ）の確認位置図（飛行場周辺）（15）



図 6.8-10 (2) 陸産貝類（ミジンヤマタニシ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（15）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡例

対象事業実施区域
調査範囲

● 確認位置
変更区域

<確認時期>
春
秋

ヒメヤマクルマガイ 1
種名 確認数

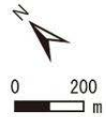


図 6.8-11 (1) 陸産貝類 (ヒメヤマクルマガイ) の確認位置図 (飛行場周辺) (16)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡例

対象事業実施区域 (土砂採取区域)
調査範囲

● 確認位置
変更区域

<確認時期>
春
秋

ヒメヤマクルマガイ 1
種名 確認数



図 6.8-11 (2) 陸産貝類 (ヒメヤマクルマガイ) の種確認位置図 (土砂採取区域及びその周辺) (16)

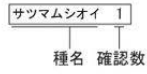
環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡例

 対象事業実施区域
 調査範囲

● 確認位置
 変更区域

<確認時期>
 春
 秋



サツمامシオイ	1
種名	確認数

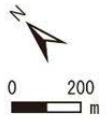


図 6.8-12 陸産貝類（サツمامシオイ）の確認位置図（飛行場周辺）（17）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡例

● 確認位置
対象事業実施区域（土砂採取区域）
調査範囲

● 確認位置
● 変更区域

<確認時期>
春
秋

タネガシマムシオイ 1
種名 確認数

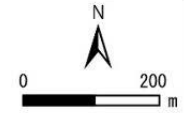


図 6.8-13 陸産貝類（タネガシマムシオイ）の確認位置図
（土砂採取区域及びその周辺）（18）



図 6.8-14 (1) 陸産貝類（アズキガイ）の確認位置図（飛行場周辺）（19）

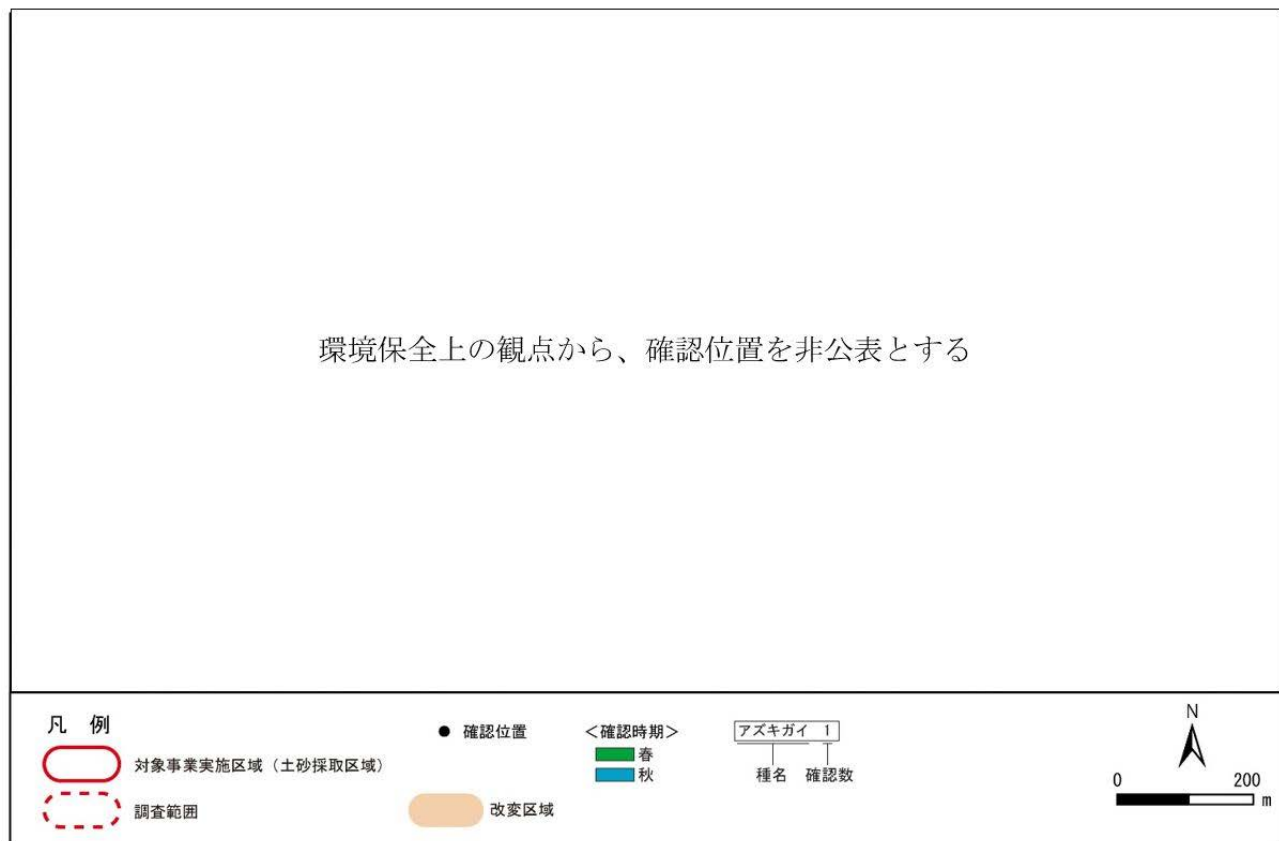


図 6.8-14 (2) 陸産貝類（アズキガイ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（19）



図 6.8-15 (1) 陸産貝類（フナトウアズキガイ）の確認位置図（飛行場周辺） (20)



図 6.8-15 (2) 陸産貝類（フナトウアズキガイ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺） (20)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

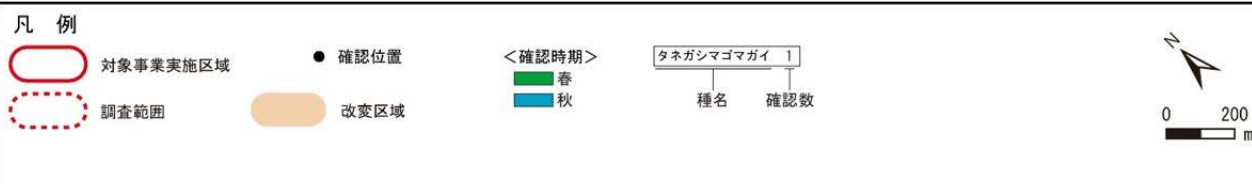


図 6.8-16 (1) 陸産貝類（タネガシマゴマガイ）の確認位置図（飛行場周辺） (21)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

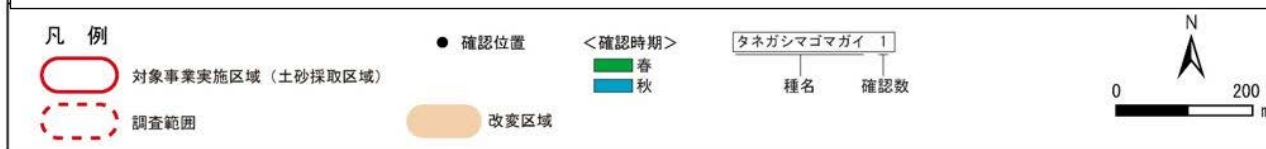


図 6.8-16 (2) 陸産貝類（タネガシマゴマガイ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺） (21)



図 6.8-17 (1) 陸産貝類（ヤクシマゴマガイ）の確認位置図（飛行場周辺） (22)



図 6.8-17 (2) 陸産貝類（ヤクシマゴマガイ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺） (22)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

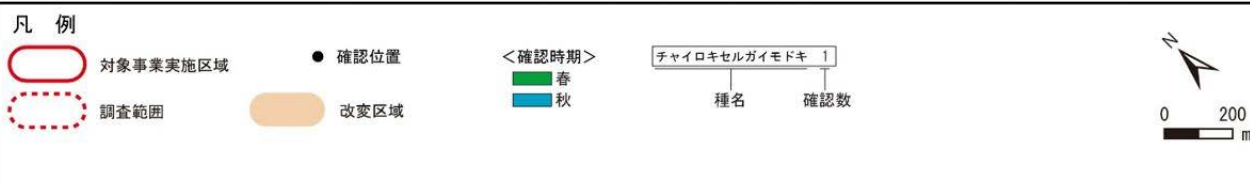


図 6.8-18 (1) 陸産貝類 (チャイロキセルガイモドキ) の確認位置図 (飛行場周辺) (23)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.8-18 (2) 陸産貝類 (チャイロキセルガイモドキ) の種確認位置図 (土砂採取区域及びその周辺) (23)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

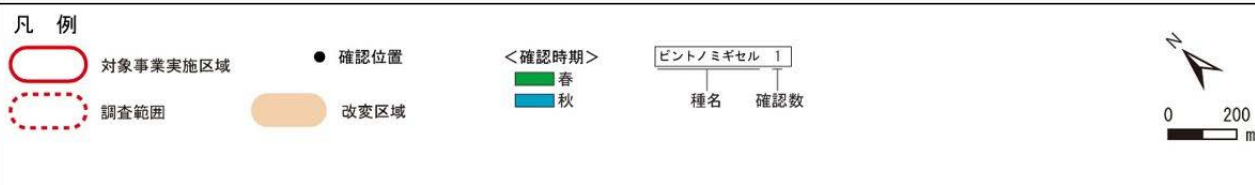


図 6.8-19 (1) 陸産貝類（ピントノミギセル）の確認位置図（飛行場周辺）（24）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.8-19 (2) 陸産貝類（ピントノミギセル）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（24）





図 6.8-20 (1) 陸産貝類（ハラプトノミギセル）の確認位置図（飛行場周辺）（25）



図 6.8-20 (2) 陸産貝類（ハラプトノミギセル）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（25）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡例

 対象事業実施区域（土砂採取区域）
 調査範囲

● 確認位置
 変更区域

<確認時期>
 春

タネガシマギセル 1
種名 確認数

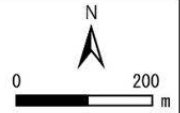


図 6.8-21 陸産貝類（タネガシマギセル）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（26）





図 6.8-22 (1) 陸産貝類（ハラプトギセル）の確認位置図（飛行場周辺）（27）



図 6.8-22 (2) 陸産貝類（ハラプトギセル）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（27）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡例

 対象事業実施区域（土砂採取区域）
 調査範囲

● 確認位置
 変更区域

<確認時期>
 春

ヤコビギセル 1
種名 確認数

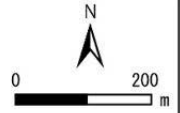


図 6.8-23 陸産貝類（ヤコビギセル）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（28）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

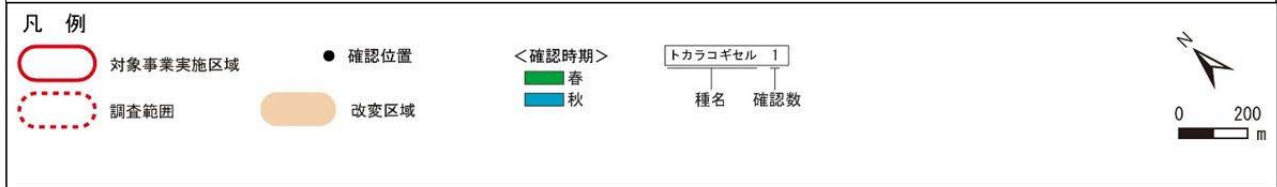


図 6.8-24 陸産貝類（トカラコギセル）の確認位置図（飛行場周辺）（29）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

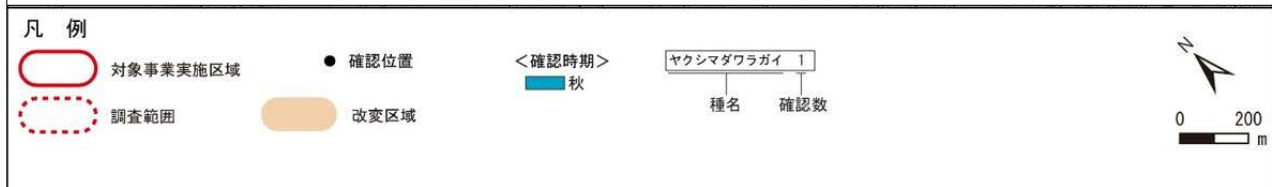


図 6.8-25 陸産貝類（ヤクシマダワラガイ）の確認位置図（飛行場周辺）（30）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

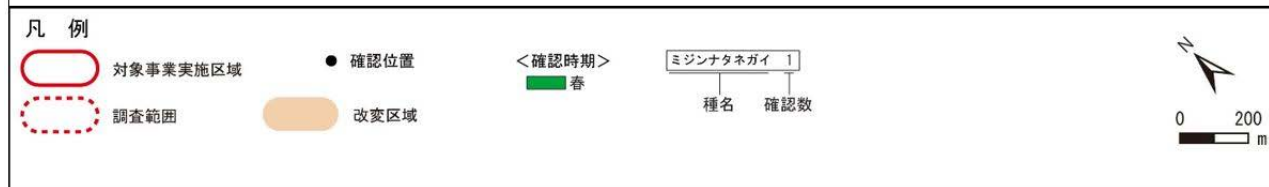




図 6.8-26 陸産貝類（ミジンタネガイ）の確認位置図（飛行場周辺）（31）

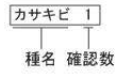
環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡例

 対象事業実施区域（土砂採取区域）
 調査範囲

● 確認位置

<確認時期>
 春



カサキビ	1
種名	確認数

 変更区域

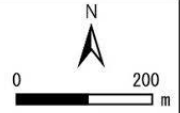


図 6.8-27 陸産貝類（カサキビ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（32）



図 6.8-28 (1) 陸産貝類（ヒメカサキビ）の確認位置図（飛行場周辺）（33）

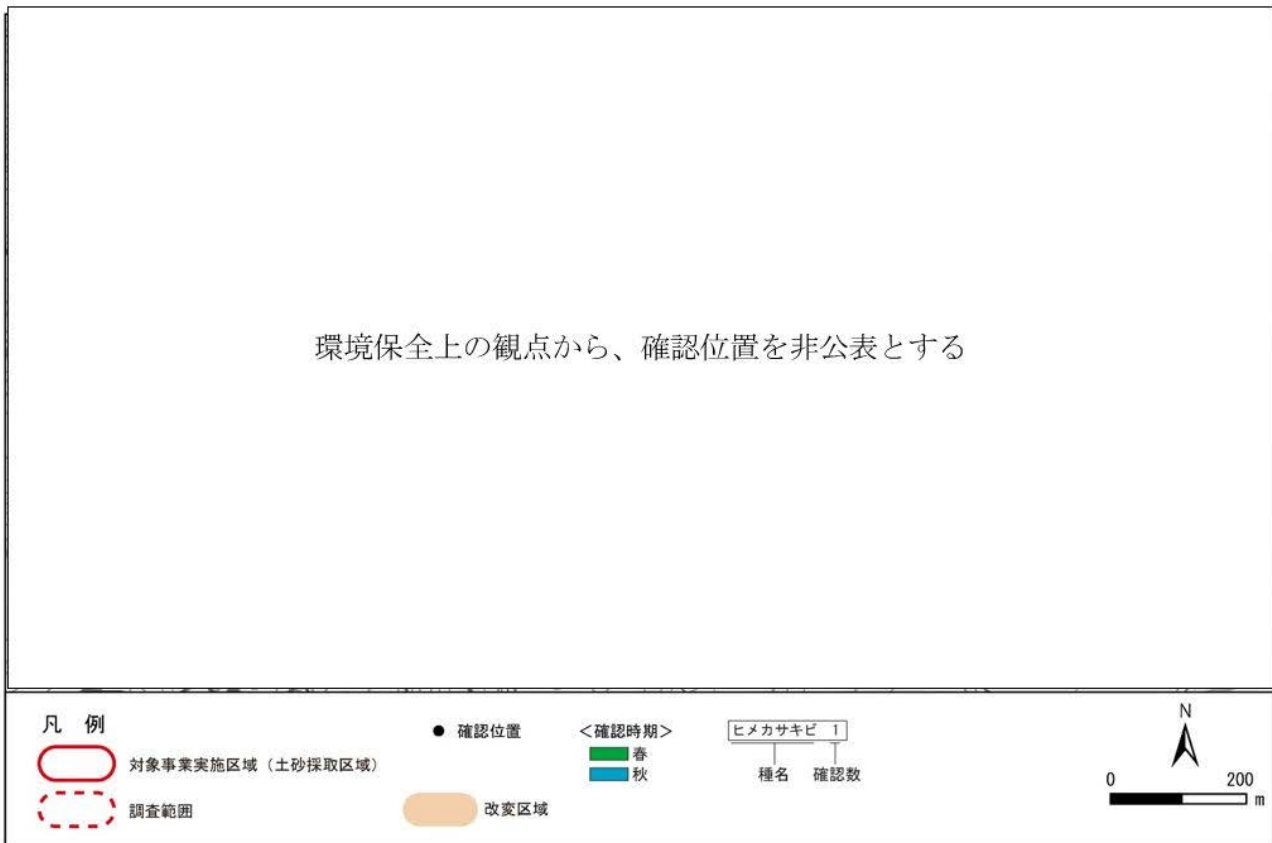


図 6.8-28 (2) 陸産貝類（ヒメカサキビ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（33）



図 6.8-29 (1) 陸産貝類（ヒメベッコウ）の確認位置図（飛行場周辺）（34）

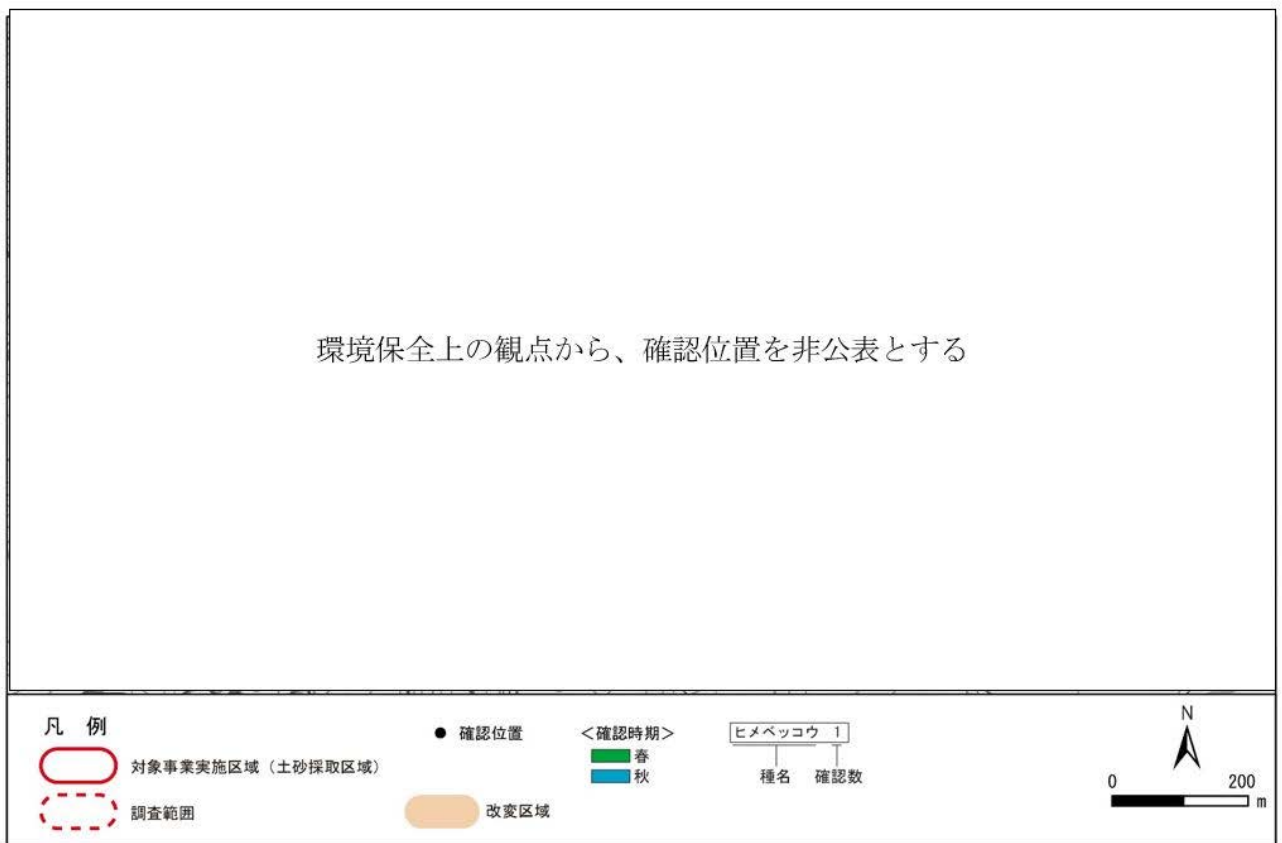


図 6.8-29 (2) 陸産貝類（ヒメベッコウ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（34）



図 6.8-30 (1) 陸産貝類（ヤクシマヒメベッコウ）の確認位置図（飛行場周辺）（35）



図 6.8-30 (2) 陸産貝類（ヤクシマヒメベッコウ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（35）



図 6.8-31 (1) 陸産貝類（コシダカシタラガイ）の確認位置図（飛行場周辺）（36）



図 6.8-31 (2) 陸産貝類（コシダカシタラガイ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（36）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.8-32 陸産貝類（ウメムラシタラガイ）の確認位置図（飛行場周辺）（37）



図 6.8-33 (1) 陸産貝類（オオクラヒメベッコウ）の確認位置図（飛行場周辺）（38）



図 6.8-33 (2) 陸産貝類（オオクラヒメベッコウ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（38）



図 6.8-34 (1) 陸産貝類（タネガシマヒメベッコウ）の確認位置図（飛行場周辺）（39）



図 6.8-34 (2) 陸産貝類（タネガシマヒメベッコウ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（39）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

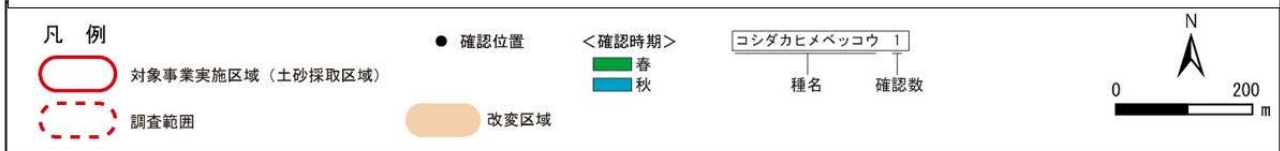


図 6.8-35 陸産貝類（コシダカヒメベッコウ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（40）



図 6.8-36 (1) 陸産貝類（ヤクシマシタラガイ）の確認位置図（飛行場周辺）（41）



図 6.8-36 (2) 陸産貝類（ヤクシマシタラガイ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（41）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡例



対象事業実施区域

● 確認位置

<確認時期>

■ 春

ソコスジカサキビ 1

種名

確認数



調査範囲



変更区域



0 200 m

図 6.8-37 陸産貝類（ソコスジカサキビ）の確認位置図（飛行場周辺）（42）



図 6.8-38 (1) 陸産貝類 (ヤクジマベッコウ) の確認位置図 (飛行場周辺) (43)



図 6.8-38 (2) 陸産貝類 (ヤクジマベッコウ) の種確認位置図 (土砂採取区域及びその周辺) (43)



図 6.8-39 (1) 陸産貝類（タカカサマイマイ）の確認位置図（飛行場周辺）（44）



図 6.8-39 (2) 陸産貝類（タカカサマイマイ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（44）



図 6.8-40 (1) 陸産貝類（クチジロビロウドマイマイ）の確認位置図（飛行場周辺）（45）



図 6.8-40 (2) 陸産貝類（クチジロビロウドマイマイ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（45）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡 例

 対象事業実施区域
 調査範囲

● 確認位置
 変更区域

<確認時期>
 春
 秋

ヘソカドケマイマイ	1
種名	確認数

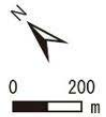


図 6.8-41 陸産貝類（ヘソカドケマイマイ）の確認位置図（飛行場周辺）（46）



図 6.8-42 (1) 陸産貝類（ツバキカドマイマイ）の確認位置図（飛行場周辺）（47）



図 6.8-42 (2) 陸産貝類（ツバキカドマイマイ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（47）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

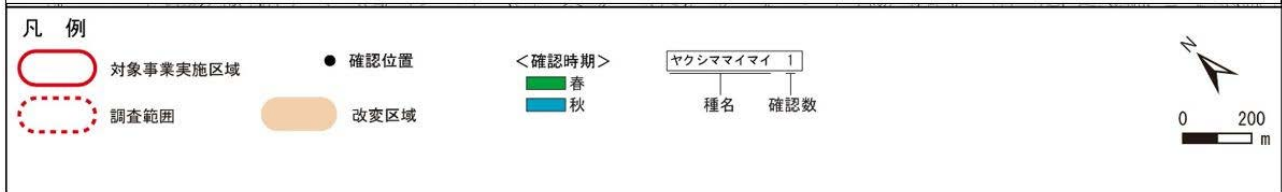


図 6.8-43 (1) 陸産貝類 (ヤクシマイマイ) の確認位置図 (飛行場周辺) (48)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.8-43 (2) 陸産貝類 (ヤクシマイマイ) の種確認位置図 (土砂採取区域及びその周辺) (48)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

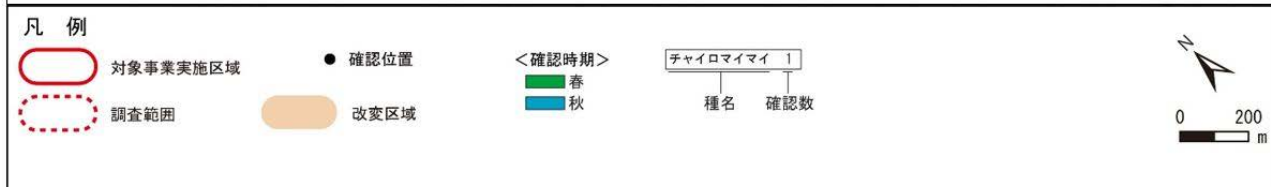


図 6.8-44 (1) 陸産貝類 (チャイロマイマイ) の確認位置図 (飛行場周辺) (49)


環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.8-45 オカヤドカリ類の種確認位置図 (50)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡 例

 対象事業実施区域

<確認時期>

 春


 秋

アカボウズハゼ 1

種名

確認数

現地調査地点

 水生動物 (Q1~Q9)



0 0.5 1 km

1:25,000

図 6.8-46 魚類の保護上重要な種確認位置図 (51~54)

6-8-79

(713)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡 例



対象事業実施区域

● 確認位置

<確認時期>

■ 春

■ 夏

■ 秋

ヤマトヌマエビ 1 (秋)

種名

確認数

確認時期

現地調査地点

○ 水生動物 (Q1~Q9)



0 0.5 1 km

1:25,000

図 6.8-47 甲殻類の保護上重要な種確認位置図 (55~63)

6-8-80

(714)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡 例



対象事業実施区域

● 確認位置

<確認時期>

■ 春

■ 夏

■ 秋

イシマキガイ 1 (秋)

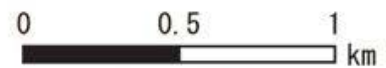
種名

確認数

確認時期

現地調査地点

○ 水生動物 (Q1~Q9)



1:25,000

図 6.8-48 貝類の保護上重要な種確認位置図 (64, 65)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

凡 例



対象事業実施区域

● 確認位置

<確認時期>

■ 早春

■ 夏

キボシケシゲンゴロウ 6 (早春)

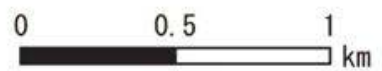
種名

確認数

確認時期

現地調査地点

○ 水生動物 (Q1~Q9)



1:25,000

図 6.8-49 水生昆虫類の保護上重要な種確認位置図 (66)

6-8-82

(716)

c. 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息状況及び生息環境の状況

注目すべき生息地の選定基準は、以下のいずれかの基準に該当する生息地とした。

- ・複数の保護上重要な種が集中して生息していること
- ・動物の集団繁殖地であること
- ・小さな湿地や洞窟、石灰岩地帯等の特殊な生息地であること

注目すべき生息地の選定基準に該当する地として、表 6.8-27～表 6.8-30 の4箇所が該当する。いずれも注目すべき生息地の選定基準のうち「複数の保護上重要な種が集中して生息していること」に該当する。分布位置は図 6.8-50(1)～(2)に示すとおりである。

現地調査において、その他の選定基準に該当する生息地は確認されなかった。

表 6.8-27 注目すべき生息地の状況（飛行場周辺の平地樹林）

注目すべき生息地	飛行場周辺の平地樹林
選定基準	複数の保護上重要な種が集中して生息していること
注目される理由である動物の種の生息状況（主な確認種）	<p>【陸産貝類】</p> <p>ヤマタニシ、ミジンヤマタニシ、ヒメヤマクルマガイ、フナトウアズキガイ、ヤクシマゴマガイ、ハラブトノミギセル、ハラブトギセル、トカラコギセル、ヒメカサキビ、ヒメベッコウ、ヤクシマヒメベッコウ、コシダカシタラガイ、タネガシマヒメベッコウ、ヤクジマベッコウ、タカカサマイマイ、クチジロビロウドマイマイ、ヘソカドケマイマイ、ツバキカドマイマイ、ヤクシママイマイ、チャイロマイマイ</p>
注目される理由である動物の種の生息環境の状況	飛行場（現施設）周辺の常緑広葉樹群落が分布するエリアである。地形的は平坦で、河川や湿地等の水域が隣接している。樹林内は湿潤な環境であり、陸産貝類の保護上重要な種の確認が多くなっている。



図 6.8-50 (1) 注目すべき生息地位置図（飛行場周辺）

表 6.8-28 注目すべき生息地の状況（土砂採取区域の緩傾斜面樹林）

注目すべき生息地	土砂採取区域の緩傾斜面樹林
選定基準	複数の保護上重要な種が集中して生息していること
注目される理由である動物の種の生息状況（主な確認種）	<p>【鳥類】</p> <p>カラスバト※</p> <p>※注目すべき生息地を生育環境の一部として利用している</p> <p>【陸産貝類】</p> <p>ミジンヤマタニシ、ヒメヤマクマガイ、タネガシマムシオイ、アズキガイ、フナトウアズキガイ、タネガシマゴマガイ、ヤクシマゴマガイ、チャイロキセルガイモドキ、ピントノミギセル、ハラブトノミギセル、タネガシマギセル、ハラブトギセル、ヤクジマシタラガイ、ヒメベッコウ、ヤクシマヒメベッコウ、コシダカシタラガイ、オオクラヒメベッコウ、タネガシマヒメベッコウ、コシダカヒメベッコウ、ヤクジマシタラガイ、ヤクジマベッコウ、タカカサマイマイ、ツバキカドマイマイ、ヤクシママイマイ、チャイロマイマイ</p>
注目される理由である動物の種の生息環境の状況	土砂採取区域の周辺に位置するエリアである。地形的にはなだらかな斜面となっている。主にシイ林とスギ・ヒノキ植林が分布するエリアである。樹林内は湿潤な環境であり、陸産貝類の保護上重要な種の確認が多くなっている。また、鳥類の保護上重要な種の利用も見られた。

表 6.8-29 注目すべき生息地の状況（土砂採取区域の谷筋樹林）

注目すべき生息地	土砂採取区域の谷筋樹林
選定基準	複数の保護上重要な種が集中して生息していること
注目される理由である動物の種の生息状況（主な確認種）	<p>【鳥類】</p> <p>カラスバト※</p> <p>※注目すべき生息地を生育環境の一部として利用している</p> <p>【陸産貝類】</p> <p>ミジンヤマタニシ、ヒメヤマクマガイ、タネガシマムシオイ、アズキガイ、タネガシマゴマガイ、ヤクシマゴマガイ、ハラブトノミギセル、タネガシマギセル、ハラブトギセル、ヤコビギセル、ヒメカサキビ、ヒメベッコウ、ヤクシマヒメベッコウ、コシダカシタラガイ、オオクラヒメベッコウ、タネガシマヒメベッコウ、コシダカヒメベッコウ、ヤクジマベッコウ、タカカサマイマイ、クチジロビロウドマイマイ</p> <p>【魚類】</p> <p>オオウナギ※</p> <p>※注目すべき生息地を生育環境の一部として利用している</p> <p>【水生昆虫類】</p> <p>キボシケシゲンゴロウ※</p> <p>※注目すべき生息地を生育環境の一部として利用している</p>
注目される理由である動物の種の生息環境の状況	土砂採取区域周辺の谷地形を中心とした範囲である。比較的自然性の高い樹林植生が優占する谷筋のエリアであり、注目すべき生息地の中で最も湿潤な環境である。確認された保護上重要な種数も個体数も多い。

表 6.8-30 注目すべき生息地の状況（土砂採取区域の丘陵地樹林）

注目すべき生息地	土砂採取区域の丘陵地樹林
選定基準	複数の保護上重要な種が集中して生息していること
注目される理由である動物の種の生息状況（主な確認種）	<p>【昆虫類】 ヤマトアシナガバチ※ ※注目すべき生息地を生育環境の一部として利用している</p> <p>【陸産貝類】 ハラプトノミギセル、ハラプトギセル、オオクラヒメベッコウ、コシダカヒメベッコウ、カサキビ、ヒメベッコウ、ヤクシマヒメベッコウ、タカカサマイマイ、クチジロビロウドマイマイ</p>
注目される理由である動物の種の生息環境の状況	土砂採取区域周辺の丘陵地形となっているエリアである。注目すべき生息地の中では最も乾燥気味であり、陸産貝類の他植物の保護上重要な種も多く確認されている。



図 6.8-50 (2) 注目すべき生息地位置図（土砂採取区域及びその周辺）

イ. 海域動物

a. 海域動物相の状況

1. 動物プランクトン

動物プランクトンの結果概要を表 6.8-31 に、確認種一覧を表 6.8-32(1)～(2)に示す。

3 地点の合計で 116 種の動物プランクトンが出現した。

分類別（門別）の出現種数は、節足動物門が最も多く（79 種）、それ以外の分類は、1～10 種程度であった。

調査地点別の出現種数は、73 種～74 種であり、調査地点ごとの出現種数に大きな差はなかった。

主な代表種はいずれの地点でも、節足動物門のカイツ亜綱、*Oithona* spp. もしくは *Oncaea* spp. の幼生であった。

表 6.8-31 動物プランクトン結果概要

単位：個体数/m³、（ ）内は組成比%

調査地点	R1	R2	R3	合計	
出現種数（種）	有毛根足虫門	2	2	2	
	繊毛虫門	5	1	7	
	刺胞動物門	2	2	3	
	扁計動物門	1		1	
	紐形動物門		1	1	
	輪形動物門	1		1	
	線形動物門		1	1	
	軟体動物門	3	3	4	
	環形動物門	1	1	1	
	毛顎動物門	2	1	2	
	筍虫動物門			1	
	棘皮動物門			1	
	節足動物門	47	51	79	
	脊索動物門	8	8	10	
	脊椎動物門	2	2	2	
合計	74	73	74	116	
個体数（個体/m ³ ）	有毛根足虫門	1,028	256	484	1,768
	繊毛虫門	78	7	49	134
	刺胞動物門	108	123	89	320
	扁計動物門	33		31	64
	紐形動物門		16		16
	輪形動物門	48			48
	線形動物門		16	17	33
	軟体動物門	1,302	813	356	2,471
	環形動物門	81	84	68	233
	毛顎動物門	230	7	188	425
	筍虫動物門			23	23
	棘皮動物門			23	23
	節足動物門	11,499	11,739	10,251	33,489
	脊索動物門	1,629	896	945	3,470
	脊椎動物門	150	152	101	403
合計	16,186	14,109	12,625	42,920	
個体数組成比（%）	有毛根足虫門	6.35	1.81	3.83	4.12
	繊毛虫門	0.48	0.05	0.39	0.31
	刺胞動物門	0.67	0.87	0.70	0.75
	扁計動物門	0.20	0.00	0.25	0.15
	紐形動物門	0.00	0.11	0.00	0.04
	輪形動物門	0.30	0.00	0.00	0.11
	線形動物門	0.00	0.11	0.13	0.08
	軟体動物門	8.04	5.76	2.82	5.76
	環形動物門	0.50	0.60	0.54	0.54
	毛顎動物門	1.42	0.05	1.49	0.99
	筍虫動物門	0.00	0.00	0.18	0.05
	棘皮動物門	0.00	0.00	0.18	0.05
	節足動物門	71.04	83.20	81.20	78.03
	脊索動物門	10.06	6.35	7.49	8.08
	脊椎動物門	0.93	1.08	0.80	0.94
合計	100	100	100	100	
組成比10%以上の 主な代表種と個体数 （個体/m ³ ） ※（ ）内は組成比	カイツ亜綱（ノブリス幼生） 2,630(16.2%) <i>Oithona</i> spp. (コベボダ幼生) 1,634(10.1%)	カイツ亜綱（ノブリス幼生） 2,990(21.2%) <i>Oithona</i> spp. (コベボダ幼生) 1,701(12.1%)	カイツ亜綱（ノブリス幼生） 2,132(16.9%) (コベボダ幼生) <i>Oncaea</i> spp. (コベボダ幼生) 1,297(10.3%)	カイツ亜綱（ノブリス幼生） 7,752(18.1%) <i>Oithona</i> spp. (コベボダ幼生) 4,434(10.3%)	

注) 1. spp. は属の複数種を表す。

注) 2. 個体数の平均値は四捨五入しているため、合計と各種の内訳が一致しない場合がある。